

## 最新の前立腺がん罹患率と死亡率からみた前立腺がん検診の妥当性の検討

岩田 健、鴨井和実、沖原宏治、三神一哉、河内明宏、三木恒治

京都府立医科大学大学院泌尿器外科学

【研究の目的】わが国における前立腺がん罹患率を 2003 年以降 2009 年まで推定し、前立腺がん検診の効果を判定すること。

【対象と方法】日本における主要泌尿器科 11 施設から得られた 2003 年から 2009 年までの新規前立腺がん患者 5812 例について、すでに報告された 2005 年までの前立腺がん罹患率のデータを基準として 2009 年までに罹患率が減少傾向に転じているか否かを判定した。

【結果】各年次の新規前立腺がん患者数は 2003 年より 2006 年まで持続的に増加し、2007、2008 年と低下し、2009 年に再度増加していた。2003 年から 2005 年までのデータを最新のがん罹患データと Over plot させ、2006 年から 2009 年までの全国罹患数を推計した。Joinpoint Regression Analysis の結果、2003 年以降年齢調整前立腺がん罹患率は全体としてゆるやかな減少傾向を示すことが予想された。2000 年頃から年齢調整死亡率の減少傾向が報告されているが、年齢調整死亡率の低下、さらに年齢調整罹患率の頭打ちという、PSA 検診の普及による早期診断の広がりの影響が考えられた。